

理念

生命を安心して預けられる病院 健康と生活を守る病院
「あなたとあなたの家族によりそう」「安全 快適 自己実現」



医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院

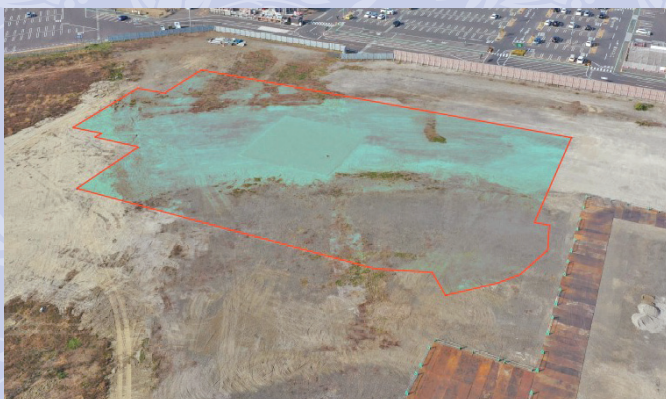
広
報
誌

よりそう

2019年
12月号
vol.21

新築移転先で「地鎮祭」を執り行いました

安全で安心な病院をコンセプトに、地域の皆様に頼って頂ける医療を提供すると共に、広域の場所から救急患者受入れに尽力します



※完成イメージ（枠線のところに建物が立ちます）

新築移転に向け地鎮祭を挙⾏

11月4日、新病院着⼯にともない移転先で地鎮祭を行いました、秋晴れの空の下、当日は徳洲会グループをはじめ自治会や町内会、設計会社、施工会社の関係者ら約70人が列席。⼯事期間中の無事故・無災害を祈念しました。

地鎮祭は現病院から直線距離で約2km離れた仙台市泉区⾼玉町で挙⾏。医療法人徳洲会や、仙台徳洲会病院と同院関連施設、徳洲会東北ブロック病院、一般社団法人徳洲会、仙台徳洲看護専門学校、仙台徳友会の幹部のほか、地元の自治体、町内会、設計者、施工者の各関係者が列席しました。

神事後の直会では、はじめに建築主として鈴木隆夫理事長が挨拶。新病院が建てられることに謝意を示し、「私たちは皆様の思いに医療を通じて応えたいと思っています」と言葉を添えられ、最後に「必ず地域で一番良い病院、一番頼れる病院、（患者さんなどを）一番助けられる病院として発展していくことを実現してくれると思います」と佐野憲院長に期待を寄せ、列席者に「厚いご支援と病院に対する厳しい監視の目をお願いします」と呼びかけました。

続いて関係者挨拶として医療法人徳洲会から3人がスピーチ。福島安義・副理事長は東日本大震災の発災当時、NPO法人TMA T（徳洲会医療救援隊）の隊員を派遣して倒壊の危機に直面しながらも仙台病院中心に県内4カ所で被災地を支援したエピソードを紹介。「新病院は、この地で支えてくれた病院職員をはじめとする徳洲会の職員、何より地域の皆様の強い思いがあったからこそ実現します」とし、引き続きサポートを依頼した。福田貢・専務理事も東日本大震災に言及。「私自身、支援に赴き泥まみれになって2、3日を過ごしました」と振り返り、「1995年の阪神・淡路大震災の時も感じましたが、そこに病院があって被災された方がいれば、徳洲会は損得抜きに、動物的に動ける組織。被災した仙台病院が建物を新たにし、地域のために力強く頑張っていく姿を頼もしく思っています。佐野院長はファイター。必ずや地域のための医療活動を展開してくれるはずです」とエールを送った。篠崎伸明・専務理事は、仙台病院が臨床研修指定病院として毎年4人の初期研修医を受け入れ医師の教育の貢献していることを紹介。「東北の基幹病院」として、今後さらなる発展に期待を寄せるとともに、新病院のサポートに意欲を見せた。

乾杯の音頭をとったのは佐野憲院長。ユーモアを交えつつ感慨深げに「いろいろな方の協力がなければ実現しなかったと心底実感しています」と感謝の意を表明。「若い医師を集め、必ず移転して良かったと言われるように、また少しずつですが仙台、さらには東北地方の医療に貢献できるように努力します」と誓い、杯を掲げた。

最後に、片岡隆行事務長が挨拶し、一本締めで終了しました。

新病院は、敷地面積35055.42㎡、建築面積7752.47㎡、延床面積33584.23㎡。地上9階・地下0階建てで鉄筋コンクリート（一部鉄骨）造り。完成は2021年秋頃を予定。



佐野 憲 院長



鈴木 隆夫 理事長



福島 安義 副理事長



篠崎 伸明 専務理事



福田 貢 専務理事



片岡 隆行 事務長

地域の登録医と連携強化

仙台徳洲会病院の登録医の先生方との意見交換を目的とした「登録医会」が、仙台ロイヤルパークホテルにて開催されました。日ごろから患者さんの紹介・逆紹介、救急患者さんの受け入れなどを行う地域の医師との連携強化を図るため年に一回開催しており、当日は当院の医師14人を含め約90人が参加しました。

第一部の講演会では、登録医幹事長の泉ヶ丘佐藤内科医院の佐藤勤理事長の挨拶の後、佐野院長が2021年に予定している新築移転のイメージ動画を流しながら新病院のコンセプトや空間づくりの工夫など特徴を説明しました。その後、副院長兼整形外科副部長井上尚美医師による「仙台徳洲会病院整形外科の取り組み～新築移転に向けて～」、総長兼脳神経外科 門間文行医師による「頸髄損傷に対する前側方部分椎体削開術」を講演、登録医の先生方は診療内容や最新医療情報に熱心に耳をかたむけていました。

第二部の懇親会では、大澤内科医院 大澤寛寿院長による乾杯の挨拶に続き、「地域の先生方に覚えていただきやすいように」と、名前や所属が書かれたプラカードを登壇した医師全員が首から下げ、一人ひとり挨拶し、診療科の得意分野を紹介しました。当院のスタッフ交え、登録医の先生方との有意義な意見交換の時間を過ごしました。

文責：地域連携室



ごあいさつ

事務長 片岡 隆行



この度、仙台徳洲会病院の事務長として赴任しました片岡と申します。

私は、平成5年3月に仙台徳洲会病院に医事課職員として入職、14年間仙台徳洲会病院に在職し、その後、東京西徳洲会病院、山形徳洲会病院を経て、本年9月1日付で仙台徳洲会病院に戻ってきた形になりました。各部署の職員には、在籍していた当時の職員も残っていますが、以前に比べ、若い職員が多くなった印象があります。今後、この職員たちと共に、心ひとつに頑張っていきたいと思っております。

当院は昭和61年に開院し、33年が経過いたしました。世間情勢の変化や建物の老朽化も進み、更には2011年の東日本大震災によって病院の建物はかなり傷んでおり、移転新築できる場所を探していたところ、関係の皆様のおかげもあり、2021年秋竣工予定で移転新築が決まりました。そして本年11月には、地鎮祭を行うことになりました。日々、目の前のことを周りの職員や、関係者様からの指導を受けながらひとつずつ形にしていければと思っております。新築移転後も地域医療に貢献できるように努めてまいります。

まだまだ、未熟な若輩者ではございますので、皆様からのご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

インフルエンザの流行を食い止める

～院内の取り組み～

文責

3階西病棟 看護師

現在流行しているインフルエンザ対策に対し、院内で取り組んでいる対策についてお話しします。

インフルエンザとはウイルス性の疾患であり、38.0度以上の発熱、咽頭痛、筋肉痛、倦怠感などの全身症状を呈し、咳、鼻汁などの上気道炎症症状が出現するものです。当院では院内患者発生時、院内感染対策マニュアルに沿って感染対策を実施しています。また、インフルエンザ感染拡大を防ぐため面会制限レベルというものがあり、面会制限なし、マスク手指消毒、家族のみの面会、面会禁止のレベル0から3と4階段に分かれております。面会時には面会者体調管理というチェックシートに現在の体調、症状の有無など記入し、体温を測定して頂きます。また、感染予防対策としてマスク装着やアルコール消毒の徹底を行っていますので面会時はナースステーションへの声掛けにご協力お願い致します。

●ご面会の皆様へ

「仙台市感染症発生動向」などから常に感染情報を把握し、面会制限レベルを決めています。皆様への周知方法として受付窓口や、エレベーターホール、病棟の出入り口にポスターを貼付けしています。また、マスク着用も面会者全ての方々にお願いしておりますので、自動販売機や売店でお買い求め頂きまして、感染拡大防止にご協力をお願い致します。

また、外来受診の患者様で、熱のある方は待合ブースを分けて対応しておりますので、ご不明な点がございましたら、お気軽に受付窓口スタッフまでお声がけ下さい。

面会者体調管理チェックシート

面会の前に必ず全項目○をつけて看護師に渡して下さい。

インフルエンザを持ち込まないため感染対策にご協力をお願いします。

① 一緒に住んでいる家族や、職場・学校などでインフルエンザの人がいる	はい	いいえ
② 今現在熱やせきなど、風邪症状がある	はい	いいえ
③ 熱やせき症状はないが、体調があまりよくはない。	はい	いいえ
④ 体温を測定してください。(※37.3℃以上の方の面会はお断りしています。)	()	℃

仙台徳洲会病院 院内感染対策委員会



エレベーターホールにも貼付けしています



面会制限レベルの告知



熱のある方へのお知らせ



発熱患者用ブース



発熱患者用ブース



直下型地震を想定し、 災害訓練を実施しました

10月に行われた災害訓練の目的は、①院内患者の安全な搬送 ②トリアージ訓練（災害時エリアの設置～その後） ③災害カルテ運用。

課題は、立ち上げた災害本部へ迅速な報告と適切なトリアージの実施。

来院した患者の重症度に応じて治療の優先順位を決定し、重症度別に分けたエリアで適切な治療を行う。ライフラインが全停止した状況の中で、どれだけ最善の治療を施せるか時間との勝負です。

定期的に行っているこの訓練には、仙台徳洲看護学校の生徒も患者役として参加し、回を重ねる毎に現実と見紛うばかりの緊張感を与えてくれます。今後も、病院単体だけではなく、グループを挙げて訓練に取り組んでいきます。



リハビリテーション科

患者様に思いやりと安全を提供できる リハビリテーション科を目指して

リハビリテーション科は昨年末、あいさつ活動を主とした接遇優秀部署として表彰をいただきました。さらに医療の質向上や業務改善の取り組みを各部署が発表する「第7回QI大会」では、参加者の投票の上、リハビリテーション科が第3位となり、事故防止の視点からインシデント・アクシデント報告目標達成した部署に贈られる賞もあわせて受けることができました。リハビリテーションは、心と身体の両方を診て触れさせていただく仕事だと思っています。心に近づかせていただく第一歩は挨拶と接遇であり、身体のリハビリを安全に行うことは私たちの継続した課題です。今後も、患者様がより早く、よりよく自立した生活がおくれるよう、リハビリテーションを提供していきたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

文責：リハビリテーション科 佐々木 和枝



健康管理室

～保健師のお仕事編～

健康管理室って何をしているの？と思われる方もたくさんいると思います。

私たちは病気ではない健康な方々を対象に、健康の維持や疾患の予防・早期発見を目的として、健康診断や人間ドック、特定健診・保健指導、予防医学外来などの活動を行っております。中でも、私たち保健師の役割として、まず挙げられるのは特定保健指導です。

特定保健指導とは特定健診の結果から生活習慣病の発症リスクが高い方（メタボリックシンドローム）に対して、保健師が生活習慣を見直すためのサポートをすることです。

保健師は生活習慣病の発症を予防するために対象者と一緒に生活を振り返り、生活習慣の改善策を検討します。年末年始はイベントが多数あるので、私自身が太らないように気をつけようと思います！！

写真は健康管理室のスタッフと、人間ドックのお食事です。新年もぜひ健康管理室をご利用ください♪

文責：健康管理室 保健師 櫻井



News

このボールを打てばどうなるものか、 危ぶむなかれ、迷わず打てよ、打てばわかるさ！

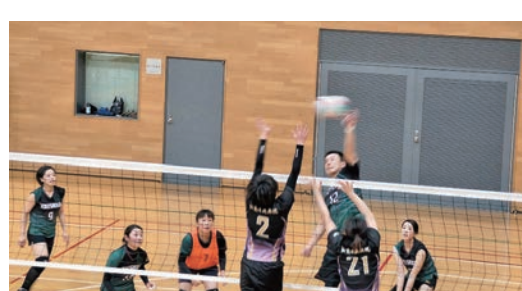
～仙台徳洲会バレー部！！活動レポ～

編集部
排球部応援サポーター



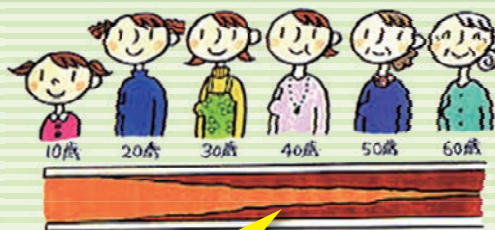
利府にあるグランディ21隣のセキスイハイムスーパーアリーナで、県内の医療機関のバレー部が日頃の練習成果を競う医療福祉仙台カップが行われました。我らが仙台徳洲会バレー部は、残念ながら上位入賞とはいきませんでした。新入職員も加わり、新生バレー部として順調に力を付けています。

今回は、古侯主将が怪我のため出場できませんでしたが、ベンチから声を出して、しっかりと存在感を出してありました。相手のサーブカットミス誘える「フローターサーブ」やサーブレシーブ体形を巧に使い分け、サーブカットの位置も変化させるなど、レシーブからアタックまでのフォーメーションが回を重ねるごとに連携が取れるようになってきています。あとは、応援に来る人達のが増えてくれればうれしいですね。



脳ドックのご案内

放っておくと怖い
動脈硬化



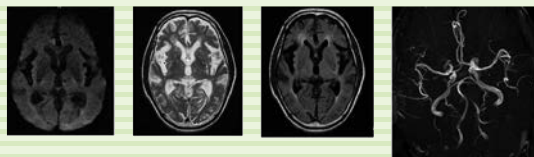
高血圧・糖尿病・肥満・脂質異常症

血管は、正常な状態で保つような習慣をつけないと、必ず衰えていきます。

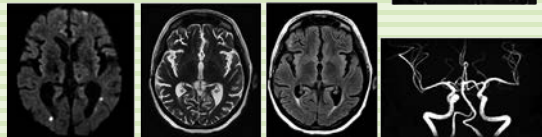
自分が今どんな状態か知った上で、食事・運動・快適な睡眠を見直し、重篤な**脳疾患**にならないために早期発見、早期予防を心がけましょう。

当院では、最新のMRI機器を導入した事で、より鮮明に脳の画像を映し出す事ができ、日々の生活を快適にお過ごしになるためのサポートを充実させています。是非当院の健診センターをご利用下さい。

IBMRI



新MRI



★脳ドックのみ	25,000円(税別)
★一般ドック+脳ドックオプション	58,500円(税別)



★お問い合わせやご予約の際はよりそうを見たとお伝えください。

2F 健診センターダイヤル 022-218-0510

平日8:00-16:30 土曜日8:00-12:00

編集
後記



新築移転に際し、完成予想図はCGによって示され、進捗具合もドローンによって空撮されます。情報発信の方法はいろいろありますが、やはり文章やイラストより、写真などのほうがイメージが付きやすいですね。

個人情報などに配慮しつつ、当院の広報誌も、写真いっぱい、笑顔いっぱい発行していきたいと思っています。

子年も宜しくお願い致します。

地域連携室 千葉 英二

